文教大学父母と教職員の会No.116

「文教大にこの人あり」

**ダークツーリズムインヨコハマ**

　　　　　　　副学長　椎野　信雄

　横浜に住んでいる。「ヨコハマ」については多くの人は、「海と港」（が身近にある）・「異国情緒・国際都市」（国際的な雰囲気がある ）・「ファッション・ショッピング」（施設が充実 ）というイメージを持っているようだ。「住みたい街ランキング」の第1位は、二〇〇五年から続いている。観光の定番スポットとしては、みなとみらい、横浜赤レンガ倉庫、横浜ランドマークタワー、横浜中華街、横浜マリンタワー、山下公園などがある。要は、明るい、開放的な、楽しいイメージとしての横浜は、横浜市１８区のうちの西区・中区のベイエリアで構成されているのだ。実のところ、横浜は、イメージと実際のギャップが一番大きな街であることもまた事実なのである。

　私は、国際学部国際観光学科に所属しているが、学生たちを連れてダークツーリズムインヨコハマを毎年春休みに開催している。「ダークツーリズム」とは、ブラックツーリズム・グリーフ（悲しみ）ツーリズム・タナ（死）ツーリズムとも呼ばれ、負の歴史記憶を持つ場所へのツーリズム（観光）のことである。観光と言うより「観影」という表現が合っているだろう。

　横浜市の中区には、様々な横浜観光スポットが存在している。と同時に、表からは見えないダークツーリズムの場所も散在している両義的な区である。中核駅の石川町からは、「元町商店街」へ行けるが、日本の三大寄せ場（ドヤ街）の一つである「寿町」へも行けるのである。もう一つの中核駅である関内駅の目の前には「横浜スタジアム」があるが、それは西洋式公園の「横浜公園」内にあるのだ。実は明治の初期に公園が建設される前には、この場所には江戸の吉原遊郭を手本にした（外国人接客のための）「港崎(みよざき)遊郭」（慶応３年）があったのだ。ダークツーリズムは、観光というよりも、歴史認識と共に実践される新しい学びのスタイルである。旅と学びを修学旅行に還元しない時代の産物である。